

日芸協中部ニュース

No.48 2025年12月1発行

編集・発行：日芸協中部 広報委員会

☆第36回日芸協中部ハーモニカコンサート

7月19日（土）に「アマノ芸術創造センター名古屋」で開催しました。出演は独奏13人、二重奏2組、五重奏1組でした。独奏では今年度の準師範合格者1名、師範合格者3名の演奏や、今年名古屋で開催された「全日本ハーモニカ演懐コンクール」で無伴奏部門2位の田中恭枝さん、複音小アンサンブル部門1位の“デュオきらきらぼし”（小野俊子さん、岩田雅子さん）がご自作編曲の「昭和枯れすすき」を演奏しました。今年のFIHハーモニカコンテストの複音ソロ部門で1位の柴山真由美さんと3位の辻 豊志さんも演奏されました。柴山さん演奏の「The Celebrated Chop Waltz」はご自作編曲で、第1回（2023年）複音ハーモニカ編曲コンクールで1位を受賞された曲でした。今回のコンサートの特徴は、自作編曲の演奏が多く聴けたことです。

ゲスト演奏では、女性五重奏“スマイル・マミンカ”が「剣の舞」「リベルタンゴ」などアンコールを含め10曲を熱演、歯切れのよいテンポと、美しいサウンドで会場が大いに盛り上りました。

猛暑のさなかのコンサートでしたがハーモニカの魅力的な音色を十分堪能することができました。



(ゲストの「スマイル・マミンカ」)

☆第30回アンデパンダン発表会

「アンデパンダン」はコンサート出演経験の少ない方や、初心者の方にも気楽に楽しくコンサートに出演していただこうという趣旨で毎年開催されております。今年度は30回目の節目を迎え、特別企画でゲストに「正井佳瑞麻（まさいかずま）」さんをお迎えします。正井さんは数多くのハーモニカコンテストでの優勝受賞歴とともに、NHKの朝ドラ「エール」「虎に翼」「あんぱん」にハーモニカ奏者で出演されるなど、ご活躍目覚ましいプロの演奏者です。

来年2月1日（日）名古屋市天白文化小劇場に足をお運びください。会員の方の熱のこもった演奏と、素晴らしいゲストの演奏が身近に聴ける貴重な機会をお見逃しなく！

◇ グレード認定のお知らせ ◇

2025年10月 中部支部関係分

【初級】★栄中日CC入門初級=内田 精 ★西春教室=磯野逸雄 ★樋口教室=渡部友美、佐藤杏子
★高藏寺中日CC=多田ます子、森下静子

【中級】★栄中日CC入門初級=坪井良子 ★栄中日CC（日）=伊藤千寿子 ★神の倉ハモ=中西 満
★ハーモニカ花音=石坂公子 ★西春教室=石原幸世
★中瀬教室=桑原雅紀 ★やさしいハモ教室=先田泰子
★なかまち教室=加藤美幸、有賀渚紗 ★さくらハーモニー=浅野喜美 ★アービレ=山内葉子
★福井新聞CC=阿古江唯説

【上級】★戸田教室=徳永国行 ★雁宿ハモ M=伊藤美佐江、榎原 操

【研究科】★栄アートピア=柴田フサ子

☆Various 研修会（多種講座同日開催）

10月25日（土）大府市愛三文化会館において、本年度2回目の研修会として、Various（多種講座）研修会が88人の参加者で開催されました。本年度も、午前5講座・午後6講座の開催で、受講者が午前・午後それぞれ1講座ずつ選択して学びました。

演奏技法の講座では、受講者が選びやすいように今回は初級と中上級の二つに分けられました。初級の講座では、タンゴブロックやベース奏法など基本となる奏法について丁寧に教えていただき、自己流になりがちだった吹き方を基本に立ち返って確認できました。中上級の講座では、バイオリン奏法やマンドリン奏法、分散和音奏法など、口や舌の動きを中心とした奏法の注意点等を学習しました。

今回の研修会では、昨年度は台風の影響で開催規模を縮小したミニ研修会になったためにできなかった「浜千鳥」の演奏法や、「荒城の月」の個別指導の講座も設けられました。それぞれの曲の特徴や演奏するときに気を付けることなどを細かく指導していただき、よりよい演奏にするためのポイントを学ぶことができました。

また、楽典や編曲、ハーモニカのメンテナンスなど、普段の練習の中ではなかなか詳しく学習できない内容の講座もあり、参加者は熱心に受講していました。講座終了後には、全員がホールに集合し、アンサンブル受講者による大合奏や、講師による独奏と重奏を聴き、最後は、受講者全員で「紅葉」と「ふるさと」を吹いて研修会を終了しました。



☆第20回なごやハーモニカ演奏会

10月11日（土）に名古屋市天白文化小劇場で開催されました。合奏12組、独奏13組 延べ106人が出演し、日頃の練習の成果を披露しました。曲目も抒情歌あり、演歌あり、J-popあり、タンゴありと実にバラエティーに富んだ構成で、3時間がとても短く感じられました。帰り際に「楽しかったわ」「来年も楽しみにしていますよ」という言葉を観客の方からいただき、スタッフ・演奏者とも疲れと苦労が吹き飛んだ想いでした。こういう方々の支えで20年間やってこられたのだなあと感慨にふけると共に、次の20年に向けて更なる努力をしようと関係者一同、気持ちを新たにした一日でした。（寄稿：長門久明さん）



☆第3回三重ハーモニカ街道演奏会

10月19日（日）鈴鹿市ふれあいホールにて開催されました。演奏は合奏、重奏が11グループ、独奏11人、延べ67人の参加でした。200席の客席は少しの空席は有りましたが沢山ご来場頂けました。ゲストにお招きしたデュオアガル（大澤龍己さん、森正義さん）の素晴らしい演奏で、来場された皆さんにはハーモニカの魅力が充分伝わったのではないかと思います。遠方からも沢山お越し頂き有難うございました。今年で3回目になり、スタッフが皆それぞれの役割をテキパキとこなし、心強く感じました。

（寄稿：樋口美穂さん）



☆第10回ピュアハーモニカコンサート（東濃支部）

10月26日（日）多治見市にある岐阜県施設、「セラミックパーク MINO」にて開催し、会場は150人定員のところ146人の入場者（出演者除く）でほぼ満席。第1部は、中島みゆき作曲の「地上の星」や「糸」、そして、ナポリ民謡「サンタ ルチア」等合奏曲11曲を3サークルで演奏。第2部は、指導者等によるソロ及びトリオ「アウラK」（加藤精吾さん、山田かをるさん、安藤謙さん）で、「ハンガリー舞曲第5番」、「コンドルは飛んで行く」、スタンダードジャズ「枯葉」等6曲を演奏。最後は、アンコール曲「いい日旅立ち」で1時間45分のコンサートを終えました。出演者は、殆どが70代、80代の高齢者ですが、疲れも見せず？安堵と満足の入り混じった幸福そうな笑顔でした。

（寄稿：加藤精吾さん）

☆トリオ99コンサート

岐阜市役所に隣接する「ぎふメディアコスモスみんなのホール」で9月9日（火）に開催されました。演奏者やスタッフのもとに多く寄せられた感想は「とっても楽しいコンサートだったよ！」です。200席のホールがほぼ満席となりました。司会者からの「ハーモニカのコンサートに初めて来られた方は？」の問い合わせに多くの観客が挙手され、ハーモニカのイメージががらりと変わった方もおられました。オープニング「踊りあかそう」を皮切りに、第一部は「ハーモニカで奏でる童謡唱歌」と銘打ち、トリオ99による三重奏、デュオきらきらぼしの二重奏、独奏と演奏形態を変えて「靴が鳴る」など9曲。第二部は「ハーモニカで奏でる名曲の数々」のテーマでAGARUの二重奏や、パライゾの五重奏も加わり「天城越え」「オペラ座の怪人」など10曲を演奏しました。ハーモニカの奏法説明やコードハーモニカやバスハーモニカなどの種類を紹介したコーナーでは、「ほー！」とか「えーっ！」という声が会場から聞こえました。フィナーレでは、出演者全員が登場し「上を向いて歩こう」を演奏しました。観客には歌とハーモニカで参加していただき最高の盛り上がりで終了しました。（寄稿：岩田雅子さん）



教室紹介 ハーモニカみわ

「ハーモニカみわ」は美和町（現在の愛知県あま市）の生涯学習事業のうち、ハーモニカ講座の受講生を中心となってクラブを結成し、20年以上が経ちました。我がクラブの規約の目的に、ハーモニカのことはもちろんですが「日々の生活に楽しさと潤いを持たせる」ことを掲げており、このことを念頭に置きながら活動をしてきました。家庭的な気さくな雰囲気が醸成されているため、お互いに体調等を気遣い励まし合いながら行うことにより、日々のわだかまりを忘れて精神的にも楽な気持ちでレッスンに集中しています。現在10人の会員で月2回、美和情報ふれあいセンターをお借りして戸田明先生の熱心なご指導のもと、楽しくレッスンをしております。会員は日芸協関連の発表会やあま市の文化祭への参加、ボランティア、授業終了直前の輪番制での独奏などに張り切っております。現在の問題点は会員の減少と高齢化です。あま市広報「みんなの掲示板」により定期的に会員募集をするなど、努力をしていますが、なかなか応募者がいません。

より若い人の入会を切に願って頑張っております。

（寄稿：伊藤孝さん）

